

P-23 COVID-19 感染予防に配慮した3年次臨床実習代替の遠隔授業について

○本田 尚郁, 船原まどか, 邵 仁浩, 磯部 彩香, 引地 尚子, 中道 敦子

九州歯科大学歯学部口腔保健学科

Remote lecture of clinical practice for third-year students considering prevention of COVID-19 infection

○HONDA Hiromi, FUNAHARA Madoka, SOH Inho, ISOBE Ayaka, HIKIJI Hisako and NAKAMICHI Atsuko

School of Oral Health Sciences Faculty of Dentistry Kyushu Dental University

キーワード：遠隔授業, 歯科保健指導, 歯科衛生士教育

Key words : remote lecture, dental health guidance, dental hygienist education

目的

社会の情報化が急速に進み, ICT教育の普及が近年求められている。COVID-19の発生によりその感染予防に配慮するため, 教育現場ではICT教育の早急な環境整備が求められ, 運用が開始された。医療系大学である本学科では対面による臨床実習の中止に伴い, 臨床実習に必要な知識および技能を修得できるような遠隔授業の課題を作成し, 実習を実施した。

このような遠隔授業による学修の現状と教育効果を把握することを目的に質問紙調査を実施し, 考察したので報告する。

対象と方法

某大学歯学部口腔保健学科3年生23名を対象に, 3年次前期臨床実習の開始された令和2年4月8日から7月15日までの期間の中で, 代替授業として行った28回分の遠隔授業の学修について質問紙調査を行った。まず代替遠隔授業全般の聞き取りを行い, 「臨床実習の代替的な学修として有意義だった(興味深かった)単元を3つ選びなさい」という問いに対して, 一番回答の多かった歯科保健指導(シミュレーション演習)の単元に焦点を絞り, さらに追加の質問紙調査を行った。質問紙調査は普段から本学の遠隔授業で活用しているMoodleを利用した。

本研究は, 九州歯科大学研究倫理委員会(承認番号20-25)の承認を得て行った。開示すべき利益相反はない。

結果

28回分の代替授業のうち, 歯科保健指導だけがteamsを利用したリアルタイム同時双方向型のオンライン授業で, その他27課題はオンデマンド型のオンライン授業であった。

代替授業全般の質問紙調査の結果は, 「臨床実習が代替的な学修に変更になったことで困ったり, 不安になりましたか」に対しては, 「ややそう思う: 60.9%」「非常にそう思う: 21.7%」であった。「臨床実習の代替的な

学修として有意義だった(興味深かった)単元を3つ選びなさい」に対しては, 「歯科保健指導52%」「印象練和・綿球作製: 40%」「保健指導Q & A・読影: 28%」「模擬患者症例に対する歯科衛生計画の立案の実践: 28%」であった。「モチベーション維持・向上に有意義だった(興味深かった)単元を3つ選びなさい」に対しては, 「印象練和・綿球作製: 60%」「綿栓スキルアップ: 44%」「歯科保健指導: 32%」であった(回答率100%/23名)。

歯科保健指導の質問紙調査の結果は, 「模擬患者を設定した遠隔授業による歯科保健指導は臨床に即していませんか」に対しては, 「非常にそう思う: 48%」「ややそう思う: 38%」であり, 「模擬患者を設定した遠隔授業による歯科保健指導でコミュニケーション技術は学べましたか」に対しては, 「非常にそう思う: 52%」「ややそう思う: 43%」であった。「2年次の授業で模擬患者を設定した遠隔授業による歯科保健指導を取り入れることについてどう思いますか」に対しては, 「臨床実習の役に立つと思う: 100%」であった。また, 「終了後すぐ行ったフィードバックについてどう思いますか」に対しては, 「即時が有意義だった: 90%」「どちらでもよい: 10%」であり, 「模擬患者を設定した遠隔授業による歯科保健指導にあたりどのくらい準備しましたか」に対しては, 「1~2時間: 52%」「1時間以内: 38%」であった(回答率91%/21名)。

考察

臨床実習代替授業の教育効果が高い傾向にあったのは, レポート課題等のみによるオンデマンド型授業よりも, 臨床実習に即した技術面や歯科衛生計画の立案といった具体的な歯科衛生士スキルに関連した課題を課したteams等を利用したリアルタイム同時双方向型の遠隔授業であった。また, 多くの学生は臨床実習が中止になったことに対しては当初不安を感じていたが, リアルタイム同時双方向型の遠隔授業を行うことで学生の心身の状態も把握でき, 教員の適切なサポートも行うことができた。したがって, 本形式の授業はCOVID-19感染予防下の大学生生活のQOLの向上にも有効であると考えられた。